

## 令和 8 年度 藤島地域主要事業

### 藤島地域振興事業（旧まちづくり未来事業）

【予算額 20,155 千円（▲2,340 千円）】

令和 6 年度の総合計画の見直しに伴い、本地域でも新たな地域振興計画が策定された。新計画でもこれまでと同様「農業振興」、「ふじのまちづくり」、「くらし」に関わる 3 つの基本方針を設定し、地域振興に資する取り組みを展開しており、令和 8 年度は 14 の個別事業に取り組む。

#### ○基本方針 1 「未来に繋げる田園文化と多様な水田活用農業の振興」

【予算額：5,796 千円（104 千円）】

- ① 有機農業からスマート農業まで多様な米づくりの推進 >2 事業
- ② 関係機関の相互連携による技術習得と情報交換への支援 >2 事業（再掲）
- ③ 地場産ブランド米の開発支援と販路拡大 >1 事業（再掲）
- ④ 園芸作物の推進による複合経営の強化 >1 事業（再掲）
- ⑤ 地域資源及び食農教育等を通じたふるさと意識の醸成 >2 事業（1 事業再掲）
- ⑥ 産学官連携による地域づくり >2 事業

#### ○基本方針 2 「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」

【予算額：13,862 千円（▲1,623 千円）】

- ① 藤島歴史公園「Hisu 花」を活用した藤島地域の魅力発信 >2 事業
- ② 「Hisu 花」と東田川文化記念館を中心とする観光拠点化の推進 >2 事業
- ③ 東田川文化記念館の利活用の推進と魅力発信 >1 事業（再掲）
- ④ 藤棚等の適正な維持管理の推進 >3 事業
- ⑤ 伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり >1 事業
- ⑥ まつりなどの賑わい創出による魅力発信強化と地域振興 >1 事業（再掲）

#### ○基本方針 3 「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」

【予算額：497 千円（▲821 千円）】

- ① 健康でいきいきと暮らせるしくみづくり >1 事業

### （地域づくり推進課）

#### 1 藤島歴史公園関連事業（地域振興事業枠） 【予算額 5,709 千円】

- ・ 藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくり事業 【予算額 4,300 千円】

・東田川文化記念館利活用事業

[予算額 656 千円]

・藤島地域花咲かせ活動支援事業

[予算額 753 千円]

藤島歴史公園「Hisu 花」をテーマ性のある重要な藤島地域の地域資源と捉え、交流拠点化と賑わいづくりを進める「Hisu 花」ワークショップを令和 8 年度も開催し、本市を代表する冬のイベントとなった藤島イルミネーションを引き続き開催していく。

また、「見ごたえのあるふじ」の育成に向け、地域に根差した公園づくりを推進するため、藤棚管理ボランティア団体や花壇定植活動を行う市民団体等を支援するとともに、ふじの花まつり期間中のライトアップや、ふじのオフシーズン時（秋から冬場）のイルミネーションの設置などを市民団体や商工業関係団体等とも連携し行い、年間を通した公園の魅力アップを行う。

隣接する東田川文化記念館では、「東田川文化記念館利活用計画」に基づき歴史的価値の理解を深める講座等を開催し、地域住民の文化意識の向上を図る。また引き続き郷土の歴史を研究する団体の活動の支援を実施する。

これらの藤島歴史公園関連事業をとおり、歴史公園一帯を藤島地域の魅力の発信拠点、活動拠点として、誇りと愛着を持てる地域づくりを推進する。

**2 藤棚の整備事業（地域振興事業枠）**

**[予算額 4,180 千円]**

スポーツ課所管施設となるが、ふじのまちにふさわしい環境整備を図るため、藤島体育館周辺の老朽化した木製藤棚を複計画的に整備する。令和 8 年度は 6 スパン分をメッキ鋼製の藤棚に交換する。

**3 藤島地域公共交通事業**

**[予算額 19,400 千円]**

藤島地域公共交通の再編を行い、令和 7 年 4 月 1 日より北部デマンドタクシー「すまいる号」、南部デマンドタクシー「ふれあい号」、定時定路線の「ふじつる号」の運行を開始し 2 年目となる。利用者の拡大に努め、地域の活性化及び住民福祉の向上を図る目的で実施する乗合タクシー事業に対し支援を行う。

**4 コミュニティセンター修繕（小規模修繕枠）**

**[予算額：880 千円]**

各地区地域活動センターの老朽箇所の修繕を実施する。

**5 住民自治組織総合交付金 [予算額：18,586 千円（藤島地域防犯灯除く）]**

市から自治組織へ交付している複数の補助金等をまとめて交付することで、自治組織にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として

交付する。

## 6 防犯灯事業補助金

- ・自治組織等が負担する防犯灯の新設及び更新に対する補助金。

[予算額：7,320 千円（全市）]

- ・自治組織等が負担する防犯灯の維持管理に必要な経費に対する補助金。

（総合交付金、単独補助金の合算） [予算額：2,640 千円（藤島地域）]

## 7 鶴岡市藤島地域総合防災訓練

鶴岡市地域防災計画に基づき、鶴岡市消防団藤島方面隊が、分団毎に災害発生を想定した訓練を計画し、藤島地域2箇所を会場に防災訓練を実施する。

一方市も、東栄地区の各町内会及び自治振興会と共に、情報伝達訓練及び避難所開設訓練を実施し、災害時における対応の確認と定着を図る。また、藤島地区の各町内会及び自治振興会も防災訓練を実施する。

## 8 庁舎管理施設改修工事（本所契約管財課）

[予算額 3,310 千円]

- ・ 藤島庁舎駐車場舗装補修工事 [予算額 3,310 千円]

## 9 名寄市姉妹都市盟約30周年記念事業

[予算額 1,327 千円]

名寄市との姉妹都市盟約締結30周年の節目にあたり、名寄市長一行を招き記念式典・祝賀会を行う。

## 10 市民、国民健康保険、年金関係窓口業務

個人番号、戸籍、住民票、印鑑登録、臨時運行許可、埋葬・火葬許可、国民健康保険、後期高齢者医療、国民年金、環境関係など、各種業務について、的確、迅速に対応する。

各種届出に対し、一連の手続きがもれなく行われるよう、来庁の市民に対し、丁寧に対応する。

## 11 健康づくり、介護予防事業

健康の維持増進を促進するため、健診業務を実施するとともに、受診率の向上に取り組む。また、予防接種の接種勧奨を行い、接種率の向上と感染防止を図る。

保健推進員や食生活改善推進員、地域包括支援センターと連携し、町内会、老人クラブ等で健康教室を実施し、講話や運動実技、調理実習等を通じて介

護予防活動の推進を図り、いきいきと暮らせる地域づくりを目指す。

## 12 高齢者支援事業

老人クラブ等の活動支援、長寿祝品伝達等、高齢者を対象とした各種事業の実施を通して生きがいづくりと社会参加を推進するとともに、敬老会事業の支援を行う。

見守りが必要な高齢者に民生委員が訪問する支援事業や、高齢者福祉・介護保険による助成・給付事業を継続して実施する。

## 13 子育て支援事業

[予算額 275,610 千円]

安心して子育てできる環境を確保するため、社会福祉法人「ふじの里」が指定管理者となっている藤島こりす保育園及び藤島くりくり保育園や、学校法人「いなば学園」が指定管理者となっている藤島児童館の円滑な運営を支援する。

藤島児童館の老朽化及び学童登録児童増加による狭隘化の解消に向けて、施設の適切な維持管理及び計画的な修繕により、安全・安心な利用環境の確保に努める。

## 14 藤島斎場管理運営事業

[予算額 17,233 千円]

藤島斎場は、火葬炉 2 基を配置し、年間 200 件前後の使用があり、藤島地域のみならず鶴岡斎場と共に鶴岡市の火葬業務を担っている。昭和 59 年稼働の施設・設備ではあるが、今後も火葬件数は増加すると見込まれることから、適切な維持修繕を行いながら運営していく。

## 15 藤島ふれあいセンター管理事業

[予算額 5,008 千円]

藤島ふれあいセンターは、令和 4 年度から中町町内会を指定管理者として管理運営を行っている。住民の自主活動を推進し、地域の活性化に資するよう進めていく。

なお、隣接の市場であった普通財産部分は、令和 13 年 3 月末まで株式会社出羽マルシェに貸し付けている。

## 16 長沼温泉ぽっぼの湯管理運営事業

[予算額 87,223 千円]

長沼温泉ぽっぼの湯活性化事業（地域振興事業枠） [予算額 497 千円]

長沼温泉ぽっぼの湯は、令和 3 年度より健康増進施設としてスタートしている。地元主体の長沼温泉ぽっぼの湯運営協議会が指定管理者となり運営を行い、フレイル予防事業を実施するとともに、自治振興会やスポーツ関連団

体等と連携し、藤島庁舎各課と一体で利用者拡大の取組を推進する。施設は建設から 25 年を経過していることから、適切な維持修繕を実施する。

また、活性化事業では、子育てを支援する事業等とともに女性や家族連れ向け事業実施により新たな客層を取り込み、利用拡大を図る。

## **(産業建設課)**

### **17 藤島地域人と環境にやさしい農業推進事業（地域振興事業枠）**

**[予算額：500 千円]**

有機農産物及び独自認証米について、首都圏でのイベントや有機農業出前授業の開催により交流を強化し、人と環境にやさしい農業の理解促進を図ることで販路拡大に繋げる。

地産地消事業については、サンサン・畑の会と連携して学校給食センターへ新鮮で安心な地場産野菜を納入し、地産地消率の向上を図る。

また、子供たちが農業の未来や魅力に関心を持ち、地域への誇りと愛着を育むため、田んぼの生き物調査や有機農業出前授業を行い、循環型農業の必要性や持続可能な環境を守っていく意識を醸成する。

### **18 藤島農産物元気事業（地域振興事業枠）**

**[予算額：1,968 千円]**

「藤島農産物元気食楽部」を核とし、生産者と農業関係機関が一体となった農業振興を図り、地域農業の活性化を推進するとともに、研修会や講義等を開催し、後継者の育成を図る。

また、稲作と園芸の複合経営の推進や、低コスト化・省力化技術等を実証していくことにより、農家所得の向上を図る。

このほか、藤島地域と関係の深い大東文化大学の学生と連携し、首都圏イベント等で鶴岡産米の PR を行い、SNS 等で拡散することにより鶴岡産米全体のイメージ向上を図る。

### **19 藤島地域観光拠点魅力アップ事業（地域振興事業枠） [予算額 208 千円]**

地域の花である藤が咲き誇る「藤島歴史公園」と、国指定史跡に指定された「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」を一体的な観光拠点とするため、魅力ある情報発信を行う。また、ふじしま観光協会や出羽商工会などと連携し、地域内での観光消費額拡大を図り、商工業者の支援に繋げていく。さらに、「藤の管理講習会」を開催し、適切な管理技術の普及を図るとともに美しい景観の維持・向上と藤への関心・愛着の醸成につなげ、地域の魅力向上や観光誘客に寄与する。

**20 庄内農業高等学校地域連携事業（地域振興事業枠）**【予算額：1,000 千円】

本市農業の人材輩出機関である県立庄内農業高等学校では、地域連携事業を展開し教育機関としての同校の更なる発展と魅力ある学校づくりの取組みを推進している。

鶴岡の地域資源を活用した研究活動の支援事業、農業の成長産業・6 次産業化支援事業、庄農うどん大作戦活動支援、地域交流農園支援事業に取り組むことにより、地域の特性を活かした農業振興と地域づくり、地域活性化と同校卒業者の地元定着の促進を図る。

地元商工業との連携や地元産原料の活用を進める。また、庄農生の活動の発信強化を図り、同校のイメージ向上と入学者数増加に繋げていく。

**21 若手農業者美味しいごはんコンクール開催事業（地域振興事業枠）**

【予算額：1,800 千円】

49才までの若手農業者を対象とした「第5回鶴岡ごはん日本一」を開催し、若手農業者のやる気の喚起を図るとともに、鶴岡が良質米の産地というイメージを定着させ鶴岡産米の販売力強化を図る。

**22 藤島地域里山整備活性化事業（地域振興事業枠）** 【予算額：528 千円】

「藤島地域里山整備活性化事業」の一環として四阿周辺、根子杉周辺、散策路の環境整備活動（枝払い、砂利敷等）を実施するもの

- ・環境整備用の砂利等を原材料支給し集落の活動を助成
- ・森林学習教室の開催
- ・8年度は散策路上の支障木の撤去を実施

**23 まつり振興事業（伝統芸能祭開催事業含む）** 【総予算額：3,831 千円】

- ・「ふじの花まつり」 【予算額：1,241 千円】
- ・「ふじしま夏まつり」 【予算額：1,270 千円】
- ・鶴岡伝統芸能祭（地域振興事業枠） 【予算額：790 千円】
- ・「ふじしま秋まつり」 【予算額：530 千円】

主要観光事業である「ふじの花まつり・ふじしま夏まつり・ふじしま秋まつり」を開催する。

5月の「ふじの花まつり」は地域最大のまつりであり、地域外来場者の割合が多いことから、さらに来場者が増えるよう、イベント内容を工夫し、藤島歴史公園・東田川文化記念館を一体的な観光地として一層力を入れて行く。

「ふじしま夏まつり」は、鶴岡伝統芸能祭など市民参加型イベントをメインにしている。伝統芸能祭は市内全域から保存団体が集まり、演舞の披露や

他団体の伝統芸能を鑑賞し交流する貴重な場となっており、地域の伝統芸能を保存継承していくための意識の醸成や育成につながっている。

11月開催の「ふじしま秋まつり」は、「つや姫の里の収穫祭」をテーマとし、藁を使った参加型オリジナルイベントや「鶴岡ごはん日本一」など「米の里ふじしま」らしい取り組みを通して「食と農による地域づくり」を広くアピールしていく。

3大まつりに関しては、商工業者の活動を活発化するために連携を強化していく。

## 24 建設関連事業

### ◇ふじのまちかど整備事業 (25基の内4基) [予算額：2,800千円]

市道の老朽化した藤棚の修繕を実施する。

(令和4年度から実施、令和8年度完了予定)

### ◇除雪機械整備事業 [予算額：102,487千円]

- ・ 藤島ロータリー除雪車 2.2m級
- ・ 藤島ロータリー除雪車 1.3m級 草刈り装置含

### ◇公園管理 [予算額：1,250千円]

- ・ 緊急修繕料

### ◇道路新設改良事業 道路公共事業 [本所予算額：72,518千円]

- ・ 藤島斎場線（拡幅改良）
- ・ 長沼栄線（冠水対策）
- ・ 藤島駅線（側溝・舗装整備）



| ① 農地の確保と有効利用                                                                                                                                                  | ② 農地等の利用の最適化                                                                                                                                                     | ③ 農業の担い手の育成・確保                                                                                                                            | ④ 地域農業の課題解決への取り組み                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>農業委員会法 第6条第1項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地法の許認可等、農業経営基盤強化促進法の「農用地利用集積等促進計画」の決定</li> <li>・農地の利用状況調査（農地パトロール）</li> <li>・遊休農地対策等</li> </ul> | <p>農業委員会法 第6条第2項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進</li> <li>・農地所有者の意向把握</li> <li>・地域計画（目標地図）のブラッシュアップ</li> </ul> | <p>農業委員会法 第6条第3項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営の法人化、複式簿記の記帳や青色申告の推進</li> <li>・農業者年金の加入推進</li> <li>・調査・情報提供活動</li> </ul> | <p>農業委員会法第38条</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者と意見交換等を行い、広く農業者の声をくみ上げ関係行政機関等へ意見を提出</li> </ul> |

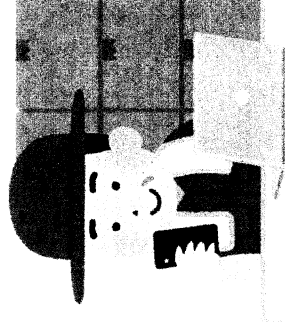
## 活動事例①（タブレット端末活用の効果と利点）

令和6年7月～ 農業委員20名・農地利用最適化推進委員31名全員にタブレット端末を配付

- ・多い時は月600枚以上あった議案書印刷を削減
  - ⇒ パーパース化により業務量減
- ・会議資料はすべてタブレット端末へメール送信
  - ※総会（年2回）、農地部会（毎月）
  - ⇒ 郵便料金の減少と情報伝達の迅速化
- ・タブレット端末でGPS機能や地図アプリを活用
  - ⇒ 現地確認の効率化、写真撮影も可能

R8～

- ・委員による活動日報の入力
- ・農地パトロール結果を委員が直接入力
- ・農地利用の意向把握を実施
- ・データ管理により集計作業等の省力化



## 活動事例② (農業者等との意見交換会を5年ぶりに開催)

日時: 令和8年2月10日 場所: 東京第一ホテル鶴岡「鳳凰の間」  
 参加者: 83名 (農業の最前線で活躍されている団体・個人の皆様)  
 目的: 農業者等の声を国や県、市の農業施策に反映させるため



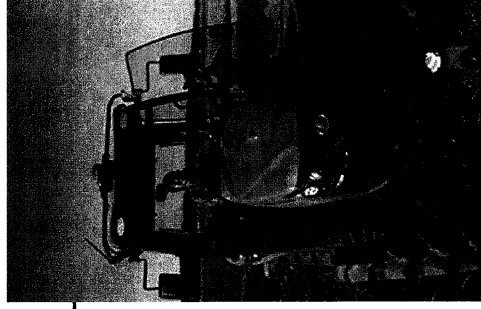
6つのテーマに絞って意見交換  
 「農地集約」「新規就農」「鳥獣害」  
 「農業経営」「遊休農地」「中山間」  
 それぞれが活発に意見を出し合い  
 有意義な時間となりました。

マンダラチャートを使って、和気  
 あいあいと意見交換する参加者

## 活動事例④ (SEADS研修生支援活動)

日時: 令和7年10月30日 場所: 西郷地区の圃場  
 講師: 農業委員・推進委員4名  
 参加者: SEADS研修生17名  
 内容: 農作業機械講習会

交流を通し、各地域の農業状況を伝えるなど、支援  
 チームとして地域農業の人材育成に努めています。



## 活動事例③ (女性委員の活躍推進)

日時: 令和8年3月4日 場所: 砂防会館(東京都)  
 内容: 「第21回女性の農業委員会活動推進シンポジウム」  
 において「地域や世代を越えたネットワークづくり」と題し、  
 事例発表を行いました。

○山形県農業会議のファシリテーター研修会に参加し、  
 農業ファシリテーターの資格を取得したこと

○資格を活用し、楽しい雰囲気づくりを大切に企画した  
 「農業者わくわくワークショップ」をこれまで3回開催

○地域計画の話し合いでもスキルを活かし、参加者が話し  
 やすい雰囲気づくりを心がけて実践したこと

○最後に「地域農業者同士のつながりが必要不可欠。

地域や世代を越え地域一体となって、鶴岡市の農業を  
 楽しく元気にしていきたい」と明るく宣言し締めた

女性委員  
 サクラ、ソボやだ、ちや豆をかぶり、会場の笑いを誘う

